



魅力あるまちづくりを

総合計画審議会からの中間報告



▲中田市長(左)に中間報告書を手渡す由井会長と副会長

南あわじ市の最も基本的な将来計画である「総合計画」策定に取り組む総合計画審議会(由井淳裕会長)から六月二十九日、政策体系案が中田勝久市長に提出されました。同審議会は、市長の諮問に応じ二十人の委員が三部会に分かれてテーマ別に意見交換をしたり、講師を招いて研修

を受けたりしながら、六回にわたり協議を重ね十年後の市の将来像について、計画の骨子となる政策体系案をまとめました。今後は、将来のめざすべきまちの姿の実現に向け、行政の使命と市民の役割などを明確にしつつ、具体的な取り組みを検討していきます。答申は、本年秋の予定。

100人委員会の中間報告会を開催

四つの分科会が発表

市民が主役でまちづくりの推進役を担う、100人委員会(河野博委員長)の中間報告会が六月二十四日、三原市民センターで開催されました。

委員会は昨年十二月に発足し、公募による委員八十四人が四つの分科会に分かれ、協議を重ねてきました。報告会では、各分科会の座長が協議内容や課題を発表しました。「少子高齢化」では、若者

の雇用確保や結婚に対する意識改革、育児支援を訴え、「安全とるおい」では、自主防災活動での役割や減災対策を提案、「定住促進」では、地域の特性を活かす職場確保や都会の人を移住させる提案があり、「教育・文化」では、ウォーキング事業の充実などが提案されました。委員会では、今後も分科会で意見を集約し、来年一月、中田市長に提言する予定。



▲100人委員会の中間報告会

青色パトカーが市内を巡回

安全・安心のまちづくりに向け



▲8月から市内を巡回する青色パトカー

地域住民の生活を脅かす凶悪事件から守る取り組みとして、市役所公用車に青色回転灯を装着した「青色パトカー」が八月一日から市内をパトロールします。南あわじ市では、防犯対策として、住民グループによる防犯パトロールや地域のおじさん・おばさんのあいさつ運動、子どもを守る一〇番の家、カギかけ運動など様々な取り組みが行われています。これらの運動に加え、公用

車を利用した自主防犯パトロールカーを巡回させることにより住民の不安を取り除き、事件防止と発生抑止を目的としています。青色パトカーには、パトロール時の注意事項などの講習を受けた職員二人が乗車します。市役所五庁舎から各一台が、児童、生徒の下校時間に合わせ二時間程市内を巡回、保護活動のほか、啓発活動や道路の安全点検活動などを行います。

西豪州首相がイングランドの丘へ

寄贈したコアラを見学

兵庫県と国際姉妹提携を結ぶ西オーストラリア州のアラン・カーペンター首相ら七人が七月一日、淡路ファームパークイングランドの丘を訪問しました。

同州が兵庫県との友好を記念し、親善大使として贈ったコアラの様子や園内の施設を、中田勝久市長や武田和士イングリッドの丘所長らの案内もと、視察しました。これまで、同州から八匹の

コアラを譲り受け、現在四匹が同園で飼育展示されています。

コアラ館を見学したカーペンター首相は「コアラが健康で元氣そうにしているのうれし」と喜んでいました。中田市長からは「コアラは一番の人気者として、たくさん観光客を呼び込んでくれます。今後も温かいご支援をお願いします」と話していました。



▲中田市長らの案内でコアラ館を見学する西豪州首相(左)

年金だより 人生の節目には届出が必要

年金は三つの種別に分けられ、ご本人や配偶者の就職・転職、結婚などの人生の節目には種別が変わることがあり、手続きが必要となります。

被保険者の種別	手続き先
学生やフリーターなど、厚生年金や共済組合に加入していない人が20歳になった	未加入→第1号 市の窓口
第2号被保険者に扶養されている配偶者が20歳になった	未加入→第3号 配偶者の勤務先
配偶者が就職し、第2号被保険者に扶養されるようになった	第1号→第3号 配偶者の勤務先
60歳になる前に、会社などを退職した	第2号→第1号 市の窓口
会社などを退職し、第2号被保険者である配偶者に扶養されるようになった	第2号→第3号 配偶者の勤務先
配偶者が退職し、第2号被保険者に扶養されなくなった	第3号→第1号 市の窓口
パート収入が130万円を超えたときなど、配偶者の扶養から外れるようになった	

手続きが遅れると万が一、病気やケガで障害が残ったときや、亡くなった場合に障害年金や遺族年金が受け取れなくなる場合があります。

- ◆被保険者の種別
 - ▽第一号被保険者 自営業者や学生など
 - ▽第二号被保険者 厚生年金や共済組合の加入者
 - ▽第三号被保険者 第二号被保険者に扶養されている配偶者(収入が一定額を超えない人)

明石社会保険事務所の出張年金相談

- ▽日時 8月4日(金) 午前11時～午後3時
- ▽場所 南淡公民館202号室
- ▽申込み 市民課 ☎43・5023

ふれあい市長室 市民に感動と元気をめぐらそう!

南あわじ市長 中田勝久

サッカーワールドカップドイツ大会の日本チームの結果は残念ですが、クロアチア戦から加地亮選手が出場し、胸の高鳴りを抑え切れなかったことを思い出します。加地選手の活躍はもちろん、市民の方々の熱心な応援や歓声に感動し、皆様のパワーを心強く感じました。今後、地域の誇りとして歴史に刻まれると思います。加地選手は幼少の頃から自分のことは自分で言う習慣を身に付け、繰り返し粘り強く練習に励んできた努力の人のです。加えて、控えめでコツコツと積み重ね、J1で出場機会が減った時期でもへこたれることなく諦めず、我慢強くベストを尽くしてきました。毎日のケアに気を配り、常にベストの体調を維持するよう努力を重ね、豊富な運動量を保っている聞いております。

彼の行動には学ぶことが多く、「日々の努力を積み重ねる」「目的に向かって決して諦めない」「プロとしての意識を持ち続ける」など、存在そのものが私達に勇気と希望をもたらし、自分自身を振り返る機会を与えてくれました。市民の皆様と共にすばらしい「ふるさとづくり」に邁進してまいります。一方、テレビや新聞など、数多くの報道機関の方々にお世話になり、地元サッカー協会や後援会をはじめ淡路人形座などのしかけづくりにより、近畿、全国に南あわじ市を知らしめていただきました。広報PRは、地域の工夫や取り組みの内容により大きく取り上げてもらえます。TVコマercialを打つと莫大な費用がかかりますが、知恵を出ししかけづくりの大切さを痛感しました。

市民の皆様や各種団体組織においても、すばらしい活動や取り組み、ボランティアなどを行っていただいております。市民の皆様が工夫やしかけづくりにご努力されるよう期待とお願いをいたします。